日本原子力学会核燃料部会
平成 21 年度第五回運営委員会議事録（案　改 1）

日時　　:平成 22 年 3 月 26 日（金）　15:00～17:15
場所　　:茨城大学・水戸キャンパス
出席者　:（順不同　敬称略）
岩田部会長、安部田副部会長、大平委員、緒方委員、北嶋委員、木下委員、草ヶ谷委員、小林委員、佐藤（修）委員、高野委員、儀宝様（田内委員代理）、野田委員、橋爪委員、原田委員、平井委員、更田委員、森山委員、逢坂様、磯部（19 名）

議事

1. 議事録案確認

磯部委員から、前回第四回運営委員会議事録案（資料 No.5-1）を提示し、了承された。

2. 予算について

磯部委員から、平成 21 年度収支予算見込み（No.5-2-1）および長期事業・予算規模計画案（No.5-2-2）が示された。また、3 月分は確定していないこと付け加えられた。特に、コメント等はなかった。

3. 核燃料部会規約案および内規について

安部田副部会長より規約改定の背景等全般が、続いて核燃料企画委員会の逢坂委員より資料 No.5-3-1～5-3-4 に基づきその詳細が説明された。

議論の結果、第 3 条(6)の○○には「核燃料」を入れること、第 6 条 1 項は、「本部会の運営は、本部会会員の互選によって選出された部会長および副部会長がそれぞれ委員長および副委員長を務める運営小委員会が行う。」に、 同 2 項は、「部会長および副部会長の任期は内規により別途定める。」に改めることが確認された。共に「幹事」に関する文言が省かれた。これは、実態としての運営委員会は、当該年度の業務分担をお願いする若干名の幹事以外にも運営に関する貴重なご意見を頂く方々から構成されていることに基づく修正である。規約については、本日の議論を踏まえた修正版を明日 3/27 の総会で諮ることとした。

続いて内規については、上記の規約の議論を踏まえた形で同企画委員会が中心になって修正する。運営委員からも意見があれば安部田副部会長に連絡することとした。そして、次回の秋の大会の総会で承認を頂けるよう進めることとした。尚、本日の議論の中では、運営委員会以外の核燃料企画委員会についても規定されており、タイトルおよび（目的）第 1 条はそれぞれ「核燃料部会の運営に係わる内規」、「規約に定める運営について定める」が良いこと、との意見があった。また、任期は 1 年（再任を妨げない）のままで良いことなどが確認された。

4. 核燃料企画委員会からの報告

安部田副部会長より、資料 No.5-4-1～5-4-3 を用いて、アジアにおける核燃料分野の協力についての覚書（MOU）、関連して ANFC(Asian Nuclear Fuel Conference)の設立について説明があった。WRFPM は産業界が、ANFC は大学がそれぞれ中心になって進める案となっている。今年 5 月の中国・成都での ASTM Zr 会議期間中に中国および韓国と MOU や運営要領など協議する。尚、WRFPM の運営要領は核燃料企画委員会で案を作成中との事。

続いて、安部田副部会長より資料 No.5-4-4 を用いて「トリウム燃料サイクルに関するワーキンググループ」の設立案について説明があった。検討の結果、WG の設置が承認された。今後、副

部会長および関連の深い方々により詳細検討に移る。また、木下委員から、関連情報として資料 No.5-11-4 が提出され、熱伝導度や FGR に関するデータが紹介された。

5. 平成 22 年度夏期セミナーについて

安部田副部会長から、No.5-5 を用いて、夏期セミナーの企画立案状況が説明された。講演題目の連絡未了の方には、再度、連絡要請があった。

6. 部会報について

北嶋委員から No.5-6-1 を用いて、部会報 No.45-2 発行作業報告がなされた。2 月末に印刷開始し、3 月に部会員に郵送完了した。費用の点では、印刷費予算 140 千円に対し、実績 181 千円強であった。本件、部会長以下、運営委員による事前了解済みであったが、同委員から資料 No.5-6-2 を用いて完全電子化の提案がなさ、費用削減、発行までのリードタイム短縮、カラー化による品質向上などが理由として挙げられた。議論の結果、核燃料部会はここ数年単年度赤字が続いており、収支均衡化を図る意味でも電子化の方向にするべきとの結論に至った。併せて、岩田部会長より単なる費用削減に留まらず電子化の利点を生かすことを積極的に考えるべき、例えば電子ジャーナル J-stage 等に載せられないか検討する様要請があった。完全電子化については、明日 3/27 の会員総会で提案することとした。

7. PSWG について

野田委員から資料 No.5-7 を用いて、今後の担当者選出および 09 年度下期作成内容（件名）について提案および議論要請があった。岩田部会長から、このようなステートメントを学会がまとめること自体に疑問があること、やり方を間違えると危ない面があることなどコメントが有り、対応そのもの付いて WG 主査の諸葛先生と相談していただく事とした。

8. 企画セッションについて

今回の学会期間中に開催する部会関連企画セッションとして 2 件予定している。平井委員から「先進的原子力システムにおける燃料材料の新しい研究アプローチ」、大平委員から「燃料加工業者における安全向上に対する取組み」についてそれぞれ紹介された。

次回の秋の大会時は、現時点、提案の予定が無いこと、さらにその次の H23 春の年会では水化学部会との勉強会をベースとする企画を予定していることが安部田副部会長より説明された。

9. 運営委員について

9-1.委員交替の件

磯部委員から資料 No.5-9-1 を用いて、3/26 付けの野田委員（日本原燃）から大江委員（同社）への交代、4/1 付けの磯部委員（三菱マテリアル）から若松委員（ジルコプロダクツ）への交代予定について提案がなされ、承認された。前者については、3/27 の総会で説明する。

9-2.H22 年度業務分担について

磯部委員から資料 No.5-9-2 の 1 項（上側 2/3）を用いて、来年度の運営委員の業務分担案が提案された。ここで、既決定事項としてグループ 2 の三菱重工殿から三菱原子燃料殿へ機関名変更およびグループ 4 の三菱マテリアルの削除が、今後の協議事項としてグループ 4 のジルコプロダクツ殿から負荷配慮希望があること（具体的には、三菱マテリアルとの交互分担時と同等を希望）が付け加えられた。

安部田副部会長から夏期セミナー担当予定の松井委員（名大）が分担出来ない旨の連絡を

受けたことが説明された。協議の結果、岩田部会長（東大）に受け持っていただくこととした。

9-3.H23 年度以降の業務分担見直しについて

磯部委員から資料 No.5-9-2 の 2 項（下側 1/3）を用いて、H23 年度以降見直しに際しての検討ポイントが説明された。一つ目は運営委員（部会長、副部会長を含む）の選任、二つ目は運営委員業務内容の明確化と負荷の平準化。

前者の選任方法について、そのたたき台（資料 No.5-9-3）と他部会の規約や内規（資料 No.5-9-4(1)(2)）が参考として紹介された。

後者については、新法人化対応や PSWG など作業負荷増、グループ 4 所属機関減による分担割合増、[夏]夏期セミナー、[内]国内企画および[広]広報などそれぞれ2機関で担当していることになっているが、必ずしも役割が明確ではなく負荷が偏りがちである。ことなどが挙げられ、例えばとしての平準化案が提示された。

今後、内規の総会承認を目指す秋の学会までに具体化することとした。

10. 総会資料について

磯部委員より資料 No.5-10 を用いて翌日 3/27 の総会資料案が説明された。修正点としては以下。

1.(6)研究専門委員会の開催日として H22 年 3 月 8 日を追加する。

3.運営委員については、H22 年度担当者に更新する。

4.今後の活動計画で(4)会報発行時期を修正する。(5)国際会議に、中国での ASTM Zr 会議およびパリでのトリウム燃料技術会議を追加する。

総会では、部会規約も本日の議論を踏まえ修正し提案する。

11. その他

11.1. 軽水炉燃料挙動に関する研究会

小林委員から、No.5-11-1 および 5-11-2 を用いて経緯および対応状況について説明があった。H21 年 10 月に原子力学会会員より軽水炉燃料の健全性維持に未焼結ペレットの存在が疑われることの提言があったので、核燃料部会の研究会にて議論を行ったこと、そして報告書は部会報に掲載することが説明され、了承された。

11.2. 核燃料－水化学部会 合同勉強会

安部田副部会長から、No.5-11-3 を用いて第一回合同勉強会の議事メモが紹介された。

11.3. 次回運営委員会

5 月 24 日の週に開催。部会長、副部会長のご都合および会場の空き状況を考慮し決定する。

以 上